

地域包括ケアネットワーク No.70

赤磐医師会の地域包括ケアネットワークに対する取り組み

赤磐医師会理事 間阪 拓郎

赤磐医師会は赤磐市（人口約4.3万人）、岡山市東区瀬戸町（人口約1.5万人）の旧赤磐郡の地域の医師から構成される医師会です。赤磐医師会は公益法人であるとともに、県内唯一の医師会病院（昭和57年開設）を有する医師会でもあります。その赤磐医師会病院は開院以来今日に至るまで継続して、かかりつけ医との共同診療（オープンシステム）を採用しており、「地域医療支援病院」・「へき地医療拠点病院」・「在宅療養後方支援病院」の許可を受けております。平成27年度に全面的な増改築工事を終了し、従来からある急性期病棟と慢性療養病棟に加えて、回復期リハビリ病棟と地域包括ケア病棟を開設いたしました。赤磐医師会圏域での完結型医療とともに、岡山市内の総合病院などで超急性期の入院医療を受けられ、自宅に帰られる前にしばらく療養できる体制を整え、地域包括システムの入院医療の核となる体制が整備できました。

一方、赤磐医師会として赤磐市と協働し、地域包括システムの構築に務めています。平成25年度から赤磐市の在宅医療連携拠点事業を行政とともに運営し、在宅医療連携ノート「ささえさん」、一般住民向け在宅医療啓発リーフレット「在宅医療のご案内」、リビングウィルリーフレットおよび「私の医療に対する希望」を記載できるカードを作成し、住民の方々に配布しました。

平成28年度からは在宅医療連携拠点事業を引き継ぎ、医療、介護、法律関係者、行政担当者からなる「赤磐市在宅医療・介護連携推進協議会」に医師会から委員が参加し、活動しています。在宅医療・介護に関わる多職種の人材育成として認知症の講演、歯科医師による口腔ケア研修会、糖尿病とフットケア研修会、さらには赤磐薬剤師会から「薬剤師の在宅医療の関わりについて」の研修などを行ってきました。

平成29年度からは、切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築促進を目的として、地域包括ケアシステムの入院医療の中心となる「赤磐医師会病院」と「在宅医療・介護スタッフ」との連絡会を立ち上げております。

また、医療・介護に従事する多職種の顔の見える関係づくりを目的とする『ケア・カフェ』を年に2回継続して開催し、講演や事例発表、ワールドカフェ形式でのグループディスカッションを行っています。平成28～30年度は終末期における支援や多職種連携、認知症高齢者の支援や権利擁護についての研修と事例報告を行いました。

今年度は、ACPのミニ研修とともに、「救急現場で活動する救急隊員の葛藤」と題して、赤磐消防署の救急救命士の方から事例発表をしていただきました。蘇生処置などで混乱する救急現場の現状をテーマに活発な意見が交換され、救急隊の方にも多職種連携の輪に入っていくことが必要と感じたことは記憶に新しいところです。このケア・カフェは参加者が100名を超えるようになり、大変活気に満ちています。

協議会の事業の目玉として、平成28年度から毎年秋に『在宅医療・介護推進フェア』を開催しております。このフェアでは、一般住民の方々を対象に、平成28、29年度は在宅療養や看取り、認知症についての講演を行い、平成30年度は認知症高齢者と支援者をテーマとしたストーリーの映画「ケアニン」の上映を行い、並行して特設コーナーを設けました。特設コー

ナーでは赤磐市包括支援センターによる相談や、医師、歯科医師、訪問看護師、薬剤師などによる在宅療養の相談、弁護士による権利擁護などの相談、訪問介護事業所の紹介、在宅療養での医療機器展示、VRシステムによる認知症の疑似体験、嚥下障害食などの展示、説明などを行い、あわせて赤磐医師会病院の入退院の流れや各病棟の特徴、入院中のリハビリテーションや栄養指導等の説明も行いました。一般住民の方々や家族を介護している人々などが、毎年、多数お越しになっております。

今年度はこのフェアにおいて、第一部で混乱する救急現場での現状をACPとともに一般住民の方々に知っていただき、第二部で赤磐市出身の落語家の方に、「落語で終活!! 最期まで自分らしく」と題して、御講演いただく予定となっております。並行して、特設コーナーもさらに充実したものになる予定です。

以上のように、赤磐医師会は地域医療の充実を目指し、医師会病院を運営しつつ、行政と密に連携を取りながら、地域包括ケアシステムの構築に取り組んでおります。



児島医師会：村山正則